



開 会 の 辞

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

会 長 新 芝 宏 之 CMA

第33回日本証券アナリスト大会の開会に当たり主催者を代表しまして、ご挨拶申し上げます。本日は、ご多用のところ、多数のご来賓の皆様、会員の皆様にご出席いただき厚く御礼申し上げます。当協会では、証券アナリストの役割を広く社会に認識していただくとともに、会員の自己研鑽と相互交流を目的として1986年以来30年以上にわたり、「日本証券アナリスト大会」を毎年10月に開催しています。

さて、足元では相場が荒れています。リーマンショックからちょうど10年が経ち、いわゆる中央銀行バブルが弾けるのか、GAFAを中心にした技術革新による新しい時代への相場が続くのか、見極めていかなければいけない重要な局面にあると思います。そして、この背景にある時代認識として、私はある一定の幅で想定できる「不確実」な時代を超えて、右に行くか左に転ぶか予測できない「不安定」な時代であると捉えております。

この不安定な時代にあっても、現在、わが国が直面する社会的な課題には明確なものがあります。その一つが「少子高齢化」であります。まず、人口減少、労働力不足が個々の企業経営に影響を与えつつあります。また、経営者の視点だけでなく、働き手の視点からも課題があります。長らく日本的な慣行として長時間労働や残業が、日本的な勤勉さ、あるいはチームワーク、いわば美德とされてきたことが変わりつつあります。労働生産性という一つのモノサシがありますが、欧米諸国、先進国と比較して低いとされているこの労働生産性を引き上げること、いわゆる稼ぐ力を強化することが、ミクロの経営でも必要ですし、マクロの日本経済全体としても必要です。そして、数値には表しにくい個々人の働き甲斐、生き甲斐を高めることも、労

働生産性という数値を高める上で重要であると思います。課題を解決していく上で、数（number）の面からは、いわゆる女性活用、高齢者活用、外国人活用などダイバシティマネジメントが効果的ですが、質（quality）の面からは、モチベーションの向上に加えて、様々なテクノロジー、人工知能（AI）などの技術革新も重要な役割を果たすと考えています。

技術革新と言うと、一足飛びにシンギュラリティとはいかなくても、AIなどの技術革新によって仕事が奪われる、無くなるという心配があるのは事実です。しかし、かつての産業革命からの歴史を振り返ってみても、また、今起こりつつある第4次産業革命について考えてみても、人間は働く時間を減らす一方で、仕事には創造性、クリエイティビティが一層求められるようになってきました。

私は働き甲斐、生き甲斐が高まる方向に向かう「未来」を信じる一人であります。しかし、世界中の人々がすべて平等に幸せになれると思うほどの楽観主義者ではありません。デジタルデバイドという格差が一層、深刻になるのかもしれませんが、どう克服するのが、個人でも、企業、国家、地球規模でも重要な課題になると考えています。

翻って、われわれ証券アナリストにとっては、こうした時代の中で、まず、何がどう変化するかを見極め、分析することが求められています。同時に、証券アナリストという仕事をしていく上で、AIなどのテクノロジーを自らの仕事に取り込み、活用していくことが必要です。いわば、人間である証券アナリストがAIを取り込み拡張すること、つまりオーグメント（Augment）することが必要であると思います。

そこで、本日は「AI時代の働き方改革、企業とアナリストの取り組み」をテーマとして、いわば問題提起をさせていただきました。様々な議論を展開していただけることを期待しております。

まず、記念講演をお二人の方をお願いしています。初めに、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 代表取締役社長の落合陽一氏に「ワークライフバランスからワークアズライフへ」というテーマで、続いて、立命館アジア太平洋大学（APU）学長の出口治明氏に「AI時代の働き方改革」というテーマでご講演いただきます。

続くパネル・ディスカッションでは、現在、日立製作所の社外取締役であり、証券アナリストとしても活躍されてきた山本高稔氏にモデレートしていただき、第一線で活躍しておられる企業経営者と証券アナリストの方々をパネリストとして、大会テーマにつきご討議いただきます。私自身楽しみにしております。こうした講演や討議が会員の皆様に新たな視点を提供でき

れば幸いです。

さて、当協会の現状と今後の取り組みについてご紹介させていただきます。

当協会の会員数は引き続き増加しており、現在、個人検定会員は27,000名を超え、法人会員等は約350社となっています。投資の意思決定に必要な深く幅広い知識・スキルを持つ人材への需要は様々な分野で高まっております。当協会としては、更に会員の方々の多様化を進め、活躍の場を広げていただくため、様々なPR活動や会員向けサービスを向上させ、証券アナリスト資格、プライベートバンカー資格について一層の充実を図ってまいります。また、フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を契機に、各企業がディスクロージャー姿勢を後退させないように働きかけ、ESGを含む非財務情報の情報開示についても促していきたいと思います。企業と証券アナリスト、投資家との「建設的な対話」が促進されるように協会として情報発信を行ってまいります。

本年1月にEUで導入されたMiFID IIにより、証券リサーチの費用対効果が改めて問われています。今や企業価値を真に分析し、価値向上に資することができる証券アナリストだけが選別される時代、いわば証券アナリストの真価が問われる時代だと申し上げてまいりました。同時に、証券アナリストは金融・投資のプロフェッショナルとして活躍する舞台が従来の枠を超えてますます広がる時代でもあります。

当協会としましては、会員をはじめ本日ご出席の皆様の一層のご協力、ご支援をいただくことによって、新しい社会的役割を一緒に果たしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、本大会の運営・企画にご尽力いただいている奥崎委員長をはじめ、大会実行委員の方々に、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

これをもちまして、「開会の挨拶」とさせていただきます。ありがとうございました。